

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	北区
学校名	堀川小学校
学校長名	衣笠 博政

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動をご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・堀川小学校では、第6学年 123名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語・算数ともに大阪市平均・全国平均を大きく上回ることができた。
平均正答率は、全国平均と比べ国語が7.8ポイント、算数が9.5ポイント上回っている。
平均無解答率は、全国平均と比べ国語が3.5ポイント、算数が1.5ポイント下回っており、特に国語科においてあきらめずに粘り強く問題に取り組むことができている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

学習指導要領の内容「(1)言葉の特徴や使い方に関する」「(2)情報の扱い方に関する事項」「A話すこと・聞くこと」「C読むこと」で全国平均を上回ることができた。特に「(1)言葉の特徴や使い方にに関する」が11.2ポイント、「A話すこと・聞くこと」9.5ポイント全国平均を上回った。児童質問紙「国語の授業の内容はよく分かりますか」の肯定的回答が89.4%であることから、国語への関心が高く、また授業も充実していることが裏付けられるが、日常の学習で、自分の考えをペアやグループで交流し、深めていく学習を各教科で進めており、その積み重ねが結果につながっていると考える。

しかし、「B書くこと」では、大阪市平均を上回ったが、全国平均を2.3ポイント下回り、今後の課題である。

[算数]

学習指導要領の領域「A数と計算」「B図形」「C変化と関係」「Dデータの活用」すべてで全国平均を上回ることができた。特に「図形」の領域では、全国平均より11.1ポイント上回った。「堀川の算数」として、学習の進め方を全学年で統一しており、「考え方を書くこと」「考え方を交流すること」を低学年から少しづつ続けている。問題を把握する力と考え方を表現する力がつながり、それが結果につながったと考えている。

質問紙調査より

「国語・算数の授業の内容はよく分かる」「読書は好き」「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」などの項目は、肯定的な回答が全国平均を上回った。研究や研修を重ねて授業改善を行ったり、読書に関わる取り組みを行ったり、夢や目標に向かってがんばることの大切さを様々な場で伝えてきたりするなど、これまでの取り組みの成果が肯定的な回答につながった。

「授業で学んだことをほかの学習で生かしている」「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「人が困っているときは進んで助けている」などの項目は、肯定的な回答が全国平均を下回った。今後、他教科との関連や他者にも視野を広げ、学習や関わりを深めていくようにしていく。また学校だけではなく、家庭でも計画的に進んで自主学習に取り組んでいけるようなきっかけを考えていく。

今後の取組(アクションプラン)

- ・普段の授業から課題に対する自分の考えを書き、ペアやグループで交流することによって自分の考えを広げ、深める活動や考えを短くまとめて書く活動を各教科で取り入れるようにしている。今後も、これらの活動に継続して取り組んでいく。また、すべての子どもにとって分かりやすい指導をめざし、これからも全教職員で研究や研修を積み重ね、授業改善に取り組んでいく。
- ・学習したことが実生活に役立つことを実感できるように他教科、領域とも関連付けて指導を行う。
- ・子どもたちにとって「楽しい学校」「楽しい行事」になるように、行事の方法や内容、取り組み方を工夫することで、達成感・成就感を味わわせるようにする。
- ・調べ学習や家庭学習など様々な場で積極的にICT機器を活用し、学びをより深めていけるようにする。

【 全体の概要 】

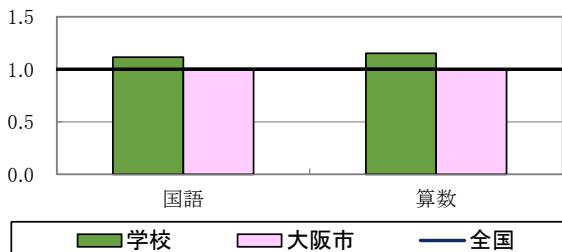
平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	75	72
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5

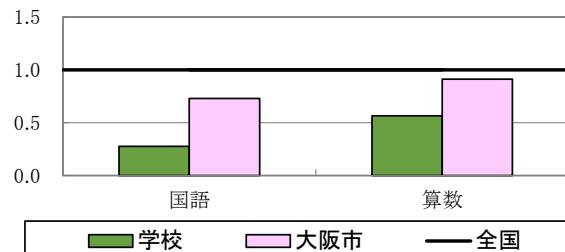
平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	1.3	1.9
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



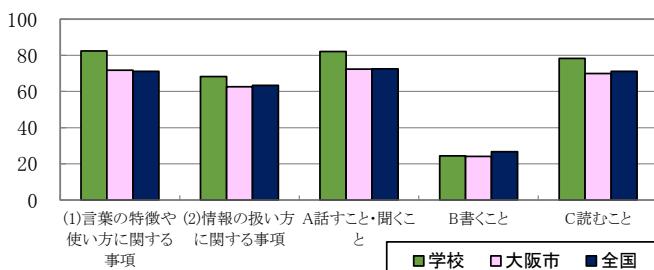
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	82.4	71.7	71.2
(2)情報の扱い方にに関する事項	2	68.3	62.6	63.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	82.1	72.4	72.6
B 書くこと	1	24.4	24.2	26.7
C 読むこと	3	78.3	69.9	71.2

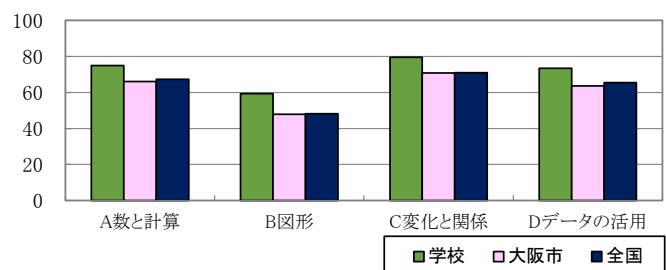
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	74.9	66.1	67.3
B 図形	4	59.3	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	79.5	70.8	70.9
D データの活用	3	73.4	63.6	65.5

国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)

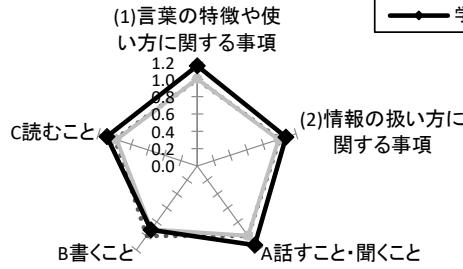


算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



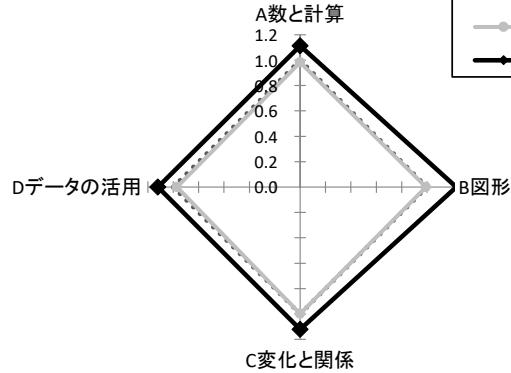
国語 領域別正答率(対全国比)

..... 全国
— 大阪市
— 学校



算数 領域別正答率(対全国比)

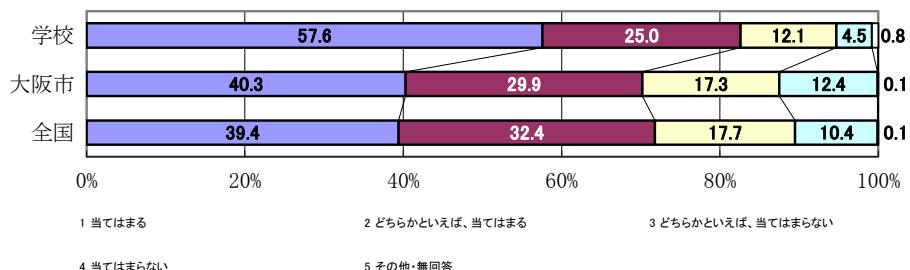
..... 全国
— 大阪市
— 学校



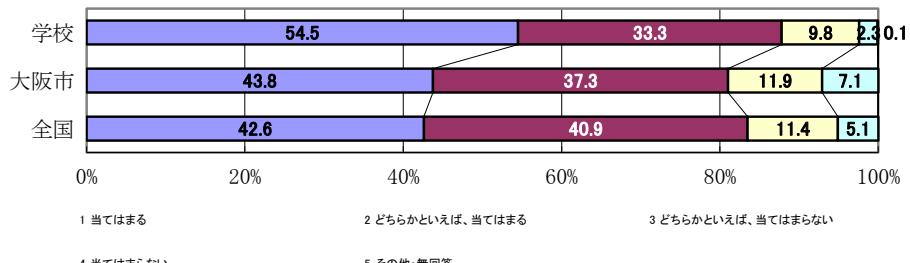
児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

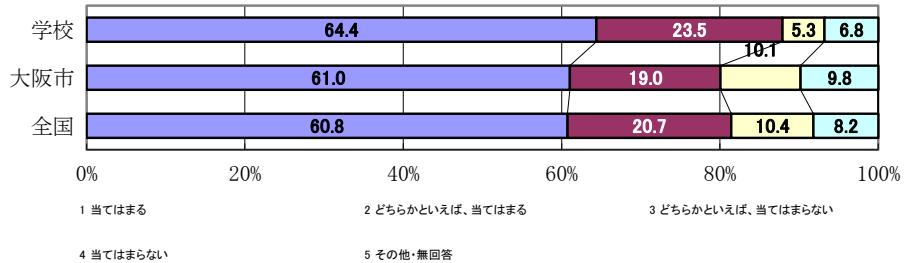
質問番号
質問事項
24
読書は好きですか



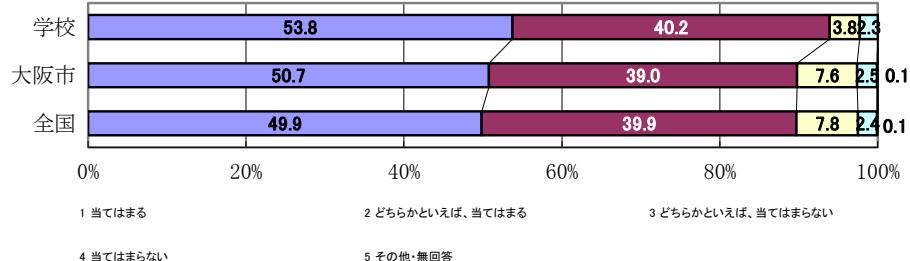
4
自分には、よいところがあると思う



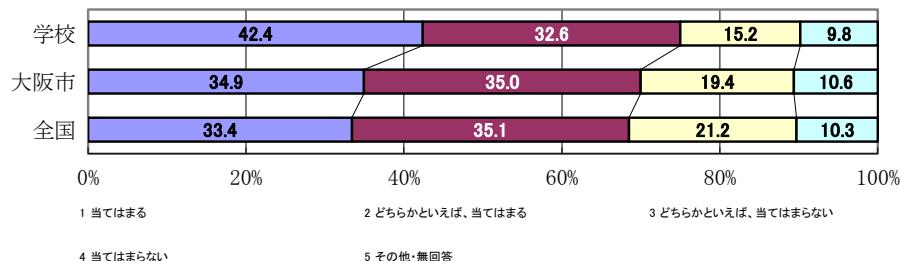
7
将来の夢や目標を持っている



5
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う



10
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる



学校質問紙より

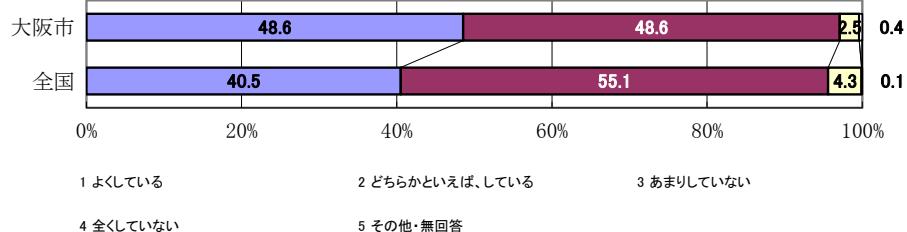
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

21

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいる

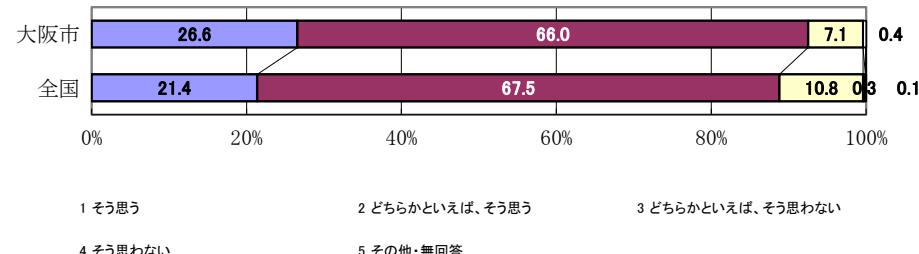
学校 「よくしている」を選択



26

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている

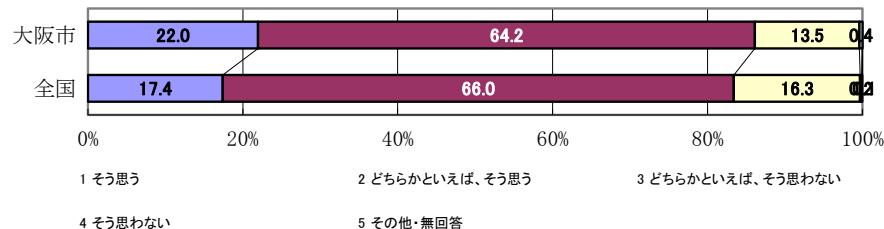
学校 「そう思う」を選択



29

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている

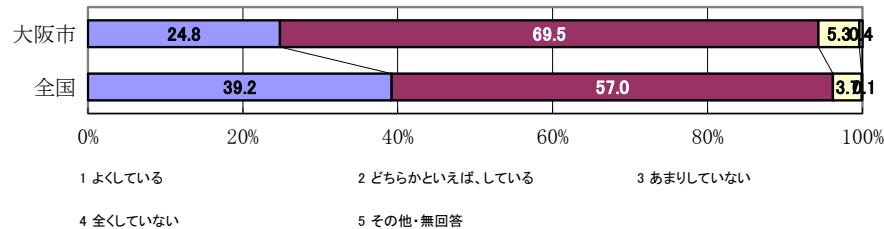
学校 「そう思う」を選択



19

児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している

学校 「どちらかといえば、している」を選択



17

ICTを活用した校務の効率化の一環として、クラウドを活用した校務の効率化(クラウドサービスを活用した保護者への連絡や、アンケートの実施、教職員等会議のオンライン化等)に取り組んでいますか。

学校 「一部の校務で取り組んでいる」を選択

